

平成30年度 学校経営方針

佐世保市立清水中学校
校長 妻夫木 敏明

【校訓】「凜と在れ」

1 はじめに

< 学校教育目標 > 明るく、自ら求めて学ぶ生徒の育成

創立71年となる本校は、多くの卒業生や先輩方の素晴らしい教育実践により、教育成果を高めながら歴史を積み重ねてきた伝統校です。創立当初から、保護者や地域の期待は大きく、学校教育に、たいへん協力的なのが本校の特徴です。この伝統に加え、平成17年3月に設定された校訓「凜と在れ」を芯柱に、全職員、全校生徒の力を結集しながら、新たな歴史を創っていく学校経営に傾注していきたいと考えます。そのためには、「学習や部活動、行事や JRC 活動に注力し成長していく生徒」「夢や目標に向けて、志を立て進路実現に努力していく生徒」を育てていくことが肝要です。

平成28年に道徳研究発表を行い、新学習指導要領の実施に備え、①授業力向上と基礎学力の定着②特別な教科「道徳」への取組 ③青少年赤十字活動の充実を3本柱として、学校教育目標の具現化を図り、保護者・地域の期待に応えるとともにこれまでの伝統のうえに「新・清水」としての新たな1ページを創ることを目指していききたい。

2 教育理念

「教師は最大の教育環境である」ことを自覚し、日々の教育実践に努めたい。また、生徒の変容の姿をもって自己の教育実践を語りたい。学校教育の目標は、生徒たちが国民として心豊かに生きていくための必要な知識を学び、社会の中で他と協調して生活していくための基礎・基本(態度)を確実に身に付けさせ、将来よき社会人として育てていくことであると認識している。

(1) 感動なくして前進なし(響育)

学校が前に進むためには、授業や学校行事、日常の学校教育の中で「きつかったけど楽しかった」という達成感や感動を持たせるかにかかっています。生徒間、生徒と教師、教師間に「ふれあい 認め合い 高め合い 響き合い」の中に感動があつてこそ、次への取組があり前進があると信じます。

(2) 期待なくして信頼なし

教育は期待し、信じることから始まります。これは徳を備えた教師が、全ての教育活動の中で、一人ひとりの生徒に期待をかけ、指導すべきことは指導することにより、豊かな人間関係を醸成していくことです。生徒自らが取り組んだり、できるようになったところは認め、存在感を高めください。

(3) 研修以外に教育の王道なし

教職員の資質向上は研修以外にありません。私たち教職員は、和やかな雰囲気の中にも、お互いが切磋琢磨しながら、それぞれの特性を認め合い、高め合うことで「教師力」や教師集団の力「学校力」が向上できます。一つは校内研修の実践、二つ目は研究授業などで確認できたことを生かしたわかりやすい授業実践、授業改善に努め、基礎学力の定着をめざしていきましょう。

新学習指導要領 特別な教科「道徳」 総則 特活 → 社会に開かれた教育課程

3 学校経営の基礎

(1) 公教育を行う。

- ①清水中学校の教育は、日本国憲法及び教育基本法に示された教育理念に基づき、関係諸法規並びに教育課程の基準である学習指導要領に即して行う。
- ②長崎県及び佐世保市の教育方針・施策に則るとともに、学校管理規則に従い行う。

(2) 本校の課題及び現代社会の要請に応える。

- ①社会の変化に対応し、心豊かな生徒の育成に努める。
- ②食・徳・体・知の調和のとれた、創造性豊かなたくましい生徒の育成に努める。
- ③人間尊重を基盤とした教育を推進する = 道徳及び青少年赤十字の実践目標の具現化

(3) 生徒や地域社会の実態に立脚する。

- ①清水中学校の特性を理解し、日々の教育活動に反映させていく。
- ②学校教育に関心が高く、協力的である保護者・地域との連携を有効に進める。
- ③生徒の良さを認め励まし、一層の自主・

4 学校経営の基本方針

長崎県教育委員会及び佐世保市教育委員会の基本方針及び努力目標に基づき、地域社会や生徒の実態を踏まえ、教育専門職としての自覚と使命感に徹し、教育の活性化を図る。

(1) 学校は組織体です

生徒一人一人の自己実現を達成させるのが私たちの職務です。生徒一人一人には、懸命に支えている家族がいて、生徒の成長に注目し、学校教育に大きな期待を寄せています。私たちは、その目的を達成するために、学校という組織体の中で、教師としての初心を忘れず、意識を高め、切磋琢磨しながら、校務を最大限に果たし、力を結集して教育成果を高めていくことが責務です。

(2) 学校経営の基盤は学級経営・学年経営です

学級経営、学年経営は、学校教育目標の具現化を図る土台です。生徒一人ひとりが、学級、学級で大切な存在であることを自覚させ、「豊かな心の育成」「心身の健康」「基礎学力の定着」を図りましょう。

(3) 学校は楽しく学ぶ場です

生徒は、様々な家庭環境で育ってきています。しかし、どの生徒にも共通して学校での生活を楽しく、達成感を持たせ自信につなげていくことが肝要です。

- ① 生徒一人ひとりの思いは受け止め、正すところは正し諭していく。できるようになったところは認めて自己肯定感を持たせる。
- ② 学級や行事、部活動で居場所と出番をつくり良さを発揮させる。 → 自己肯定感と所属感
- ③ 「教育は子どものためにある」わかりやすい授業は教師の生命線です。
生徒にとってわかる授業を実践する、授業改善を図る教師は生徒指導も成立します。
- ④ 厳しい指導の時こそ、ていねいな指導を心がける。
- ⑤ 生徒、保護者との信頼関係の構築に努める。

(4) 環境は人をつくります

感受性豊かな子どもたちのために、よりよい環境をつくっていきましょう。言葉かけやふれあいによる人的環境、教室を含めた施設・設備面での物的環境の整備で、豊かな感性や情操を育む生活及び学習環境を保証していきましょう。

- ① 学級目標を教室に掲示する。
- ② 教室の整理整頓や環境整備（朝、この教室で今日も頑張るぞという環境づくりを）
- ③ （無言）清掃の励行・意識の向上（掃除用具の扱い・使い方）
- ④ 掃除区域の明確化
- ⑤ 掲示教育での意識高揚、学校環境の活性化

※清水中がめぞす日本一

あいさつ 心のやさしさ 環境整美

（５）教室の雰囲気は職員室で決まります

職員室での会話、笑顔を大切にしましょう。プロとして教職員同士が互いに切磋琢磨し、あるいはフォローしあい、「チーム清水」として確固たるスクラムを築くことで、安心感が生まれます。先を見通した、周りに配慮した取組を心がけましょう。

（６）学校は地域教育の拠点です

地域の協力が、生徒たちの教育には必要です。保護者や地域の方々と協力して、生徒を育てていく意識を大切にしましょう。我が地域の「清水中学校」として自慢できる学校づくりを私たちは期待されています。「開かれた学校づくり」を継続し、学校施設の開放だけでなく、「教育目標達成のための日々の実践」を保護者や地域の方々に見ていただくことで、学校・家庭・地域のそれぞれの役割分担を理解し合い、生徒たちの自己実現の支援をしていくことが求められています。そのためにも「信頼される学校づくり」を目指し、積極的に教育成果を発信するとともに、アンテナを大きく広げて地域の方々の声もしっかり受信していきましょう。

- ① 来校者へのていねいな対応
- ② 電話での言葉遣い
- ③ 保護者との信頼関係の構築
- ④ HP・学級・学年・学校だよりでの情報発信
- ⑤ 学校評価の活用
- ⑥ 学校評議員・健全育成会との連携
- ⑦ 地域行事への参加

（７）教師は、誠実な心で生徒と接することが原点です

「一人の生徒をおろそかにするとき、教育はその光を失う」

<職員のキーワード>

取り組んだことが、できるようになった生徒を褒めてのばす

- ① 登校後の生徒の出席状況や様子を必ず観察する。
- ② 日頃の声かけや、生徒とのふれあいを大切に、縦横の情報連携や行動連携に努める。
- ③ 道徳教育を充実させ、心を育成しいじめ根絶に結びつける。
- ④ 体罰・人権に触れる言葉遣いの禁止。
- ⑤ 不登校生徒、不登校傾向の生徒や保護者との関わりを継続する。
- ⑥ 電話連絡や家庭訪問で生徒の家庭環境や背景を知る。心の教室相談員、あすなろ学級、関係機関（民生委員）との連携を図る。
- ⑦ 生徒の変容が学校への信頼に繋がります。生徒の成長に気づき喜びや悲しみを共有できる教師をめぞす。

6 学習指導 キーワード

わかりやすい授業 基礎学力の定着 言語活動の充実 思考力 書く力 理由を
考え発表する力 表現力 ペア・グループ学習 時間内での課題を処理する力
復習しやすいノート 家庭学習の習慣化 (家庭学習0の日をつくらない) 学習規律

- ① 毎時間、学習の「めあて」を「板書する・提示する」。
- ② 指導の意図、根拠が見える授業に取り組む。
- ③ 見やすく、興味関心を高め、授業後半にはふりかえり、まとめ、復習ができる「計画的な板書」に努める。終末には「まとめ」をして振り返らせ定着を図る。
- ④ 考える時間を確保する。
- ④ 「身に付けたこと」の定着を図る場の設定。
「何がわかったのか」「何ができるようになったのか」を確かめる場の設定。
- ⑤ 意図や根拠を考えて発表させる発問を工夫する。
- ⑥ ペア学習、グループ学習など言語活動を取り入れた授業実践に努める。
(自己肯定感・他者受容感を身につかせ所属感へ)
- ⑦ 「書く活動」を設定する。復習しやすいノートを作成し、家庭学習の定着を図る。
- ⑧ 提出物の常態化を図る。

7 生徒指導 「自律した人間に育てる」

M (身なり) A (あいさつ) S (無言清掃) K (校歌)

- ① 基本的な生活習慣の定着。
- ② 学期ごとに目標を設定させスモールステップを図る。P D C Aサイクルを用い学期毎に総括を行い、成果と課題を明確にして一年の成長に結びつける。
- ③ 生徒個々の特性を把握し情報を共有し、対応の引き出しを持つ。
- ④ 先生方や家族の目が届かない時の生徒の判断力や行動力が問われます。生徒の心に響く指導で、地域の学校として誇りに思われる行動力を身につけさせたいものです。

8 特別支援教育の充実 (教育の原点)

- ① 生徒一人一人を大切にし、ニーズに応える。
- ② 特別支援教育の基礎知識の理解と活用。
- ③ インクルーシブ教育の理解と実践。
- ④ 生徒個々の特性の理解と情報の共有。
- ⑤ 交流学習の理解と充実。
- ⑥ 生徒・保護者との信頼の構築。

9 JRC 活動 <態度目標>

気づき 考え 実行する

- ① 福島ひまわり里親プロジェクト
- ② 「今日のいいね」の取組
- ③ 勤労奉仕の意識向上と行動力
- ④ リーダーの育成

10 一徳教育のスローガン (人とかかわる基礎づくり)

近所の方にあったら声を出してあいさつをしよう